

群馬の石川建設、3次元設計データ作成を請け負い ベトナム法人活用

2025/9/10 5:00 | 日本経済新聞 電子版



イシカワベトナムはホーチミン市中心部にオフィスを構える＝石川建設提供

群馬県太田市を本拠とする総合建設業の石川建設は、建材や建物仕様の情報をひも付けた3次元の設計データ作成の請け負い業務を始めた。すでに2社と契約した。ベトナムに設立したIT（情報技術）に特化した現地法人を活用し、社内のデジタルトランスフォーメーション（DX）を進めてきたが、事業を拡大する。現地の人員も増やす方針だ。

3次元の設計データシステム「BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）」を活用して作る。3次元データや3分程度の動画を用いることで、顧客が平面の図面より完成図をイメージしやすくなるなどの利点がある。

石川建設はDX推進の一環として、完成予想図などの映像データをベトナムで作り、本社の営業で生かしている。入札時に他社よりも見積額は高かったがBIM活用が決め手となり受注できたこともあったという。

すでに日本の大手電機メーカーの子会社と大手ゼネコンのベトナム法人から、BIMを使った業務の一部をそれぞれ請け負う契約をした。社内にBIMを使える専門スタッフが手薄なケースも多いため、今後も日系企業を中心に受注を目指す。

企業によってBIMデータを活用する方法は様々だという。将来の建物改修を見込んで完成図面をBIMデータとして保管するニーズや、建物の完成イメージを広告や地鎮祭でのPR動画に使う需要などを見込んでいる。

石川建設は2016年にベトナムに進出。駐在員事務所を設け、IT人材を安定的に採用するために現地の大学などとのつながりを模索した。18年には事業を本格化するため、現地法人の「イシカワベトナム」を立ち上げた。



石川氏（後列、左から3人目）はベトナム人エンジニアについて「技術力を推進してくれる存在」と話す＝石川建設提供

現在の年間売上高は約5000万円で、10人の従業員が働く。本社の業務だけでは大きな伸びが見込めないため、25年から他企業からの受託事業を始めた。

イシカワベトナムの社長を務める石川佳美氏は「ベトナムでは日本では採用の難しい優秀な人材を獲得できる強みがある」と話す。現在はホーチミン市工科大学などの有名大学出身者も在籍している。

進出の背景には、もともと本社で雇用していたベトナム人従業員が本国でも仕事ができるよう受け皿を作ることもあった。石川氏は「業務の知識・技術はすぐに高まるものではなく、会社が何年も教育した従業員が（他社に）流出するのは損失だ」と話す。現地採用したスタッフを日本で研修させ、技術力を磨くなど人材交流にも積極的だ。



ベトナムで採用した人材も日本で研修し、技術力を磨く（群馬県太田市の石川建設）

課題となるのがベトナムでの人員確保だ。現在エンジニアが9人おり、常時5～6件の案件を抱えている。事業の安定的な拡大に向け、2～3年後をめどに人員を5割程度増やす予定だ。ホーチミン市中心部に構えるオフィスが手狭になっているため、郊外にサテライトオフィスを新設することも検討している。

（山下航）

許諾番号30105660-1 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.